

平成28年11月10日 発行

富岡実業高等学校
創立九十周年
記念事業実行委員会

http://www.nc.tomijitu-hs.gsn.ed.jp/

群馬県立富岡実業高等学校 創立九十周年記念新聞



群馬県立富岡実業高等学校校歌

鈴木比呂志 作詞
江口 浩司 作曲

一、さわやかな

さわやかな 朝のひかりに
鐘川 さざなみ うたう

若き 理想に 燃えながら
学ぶ この窓 春秋を
ああ 雲めぐる 雲めぐる
富岡実業 栄えの学び舎

二、あたらしき

あたらしき 風に向いて
若草の 芽吹く いのちよ
磨くころと この技術に

真理 求めて 学ぶとき
ああ 風かおる 風かおる
富岡実業 栄えの学び舎

三、やまなみは

やまなみは やさしなつかし
赤城嶺よ 榛名・妙義よ
時代の 叡智 日に進む

明日をめざして 励むとき
ああ 花ひらく 花ひらく
富岡実業 栄えの学び舎

群馬県立甘楽農業高等学校校歌

鈴木比呂志 作詞
茂木 一郎 作曲

一、みどりさわやかな朝風に

土の白いよ学び舎よ
求める真理ひとすじに

こころ洗って流れゆく
鐘の瀬音窓近き
あ、甘楽農高わが母校

二、仰ぐ瞳に雲燃えて

むらさき映える三山よ
研修の道はるばると
心はぐくむ大地にも

通え時代のこの息吹き
あ、甘楽農高わが母校

三、光かがやく農機具に

いのち養うこの書に
向学の眉さえざえと

若き果てなき夢呼んで
励み努めん肩組みて
あ、甘楽農高わが母校

創立90周年を迎えて

創立九十周年記念事業
実行委員会委員長
同窓会長 高橋 伸二



私たちの母校群馬県立富岡実業高等学校は、本年、創立90周年を迎えることができました。平成28年11月10日、本日ここに関係各位多数ご列席のうえ盛大に創立90周年記念式典が開催できますことを心からお祝い申し上げますと共に、この90年、本校を支え、守り育てていただいた同窓会先輩諸兄と熱心な先生方、そして地域の皆様深く感謝いたします。

本校は、甘楽富岡地域の養蚕を中心とする農業教育振興のため、大正15年4月に北甘楽郡小幡町立小幡実業補習学校として開校し、昭和12年には6ヶ町村立群馬県小幡農業学校、昭和19年には所在地を小幡から富岡の現在地に移し、昭和23年には県立に移管して群馬県立北甘楽農業高等学校となり、同年夜間定時制農業科を開設(昭和43年定時制廃止)、昭和52年には、創立50周年記念式典を挙行、昭和61年には、電子機械科を設置し、校名を現在の「富岡実業高等学校」に変更して、創立60周年記念式典を挙行、平成9年には創立70周年記念式典、平成13年には学科改編により生物生産科、園芸科学科、食品科学科、電子機械科の4学科とし、平成18年には創立80周年記念式典を挙行、平成27年には、近年の少子高齢

化、就学者減少の時代背景のもと各所で高校の再編が進み、当地域でも東高が富高と統合することとなりました。本校でも、生物生産科、地域産業科、電子機械科の3学科に再編となりました。

このたび創立90周年記念式典を迎えるにあたり、学校同窓会、PTAの担当者各位と共に実行委員会を組織し、委員の皆様が熱心に準備を重ねられた結果、平成28年11月10日、本校体育館において次のような祝賀事業と式典を行うことといたしました。

- ① 心のある同窓会名簿の発行
- ② 記念講演

講師には、富岡製糸場世界遺産登録の群馬県推進課長として、平成16年の当初から平成26年世界遺産登録までの全過程を、群馬県庁の唯一無二の責任者として内外にわたり大活躍された松浦利隆氏(現・群馬県立女子大学教授)を迎えて、その世界遺産価値とは何か、なぜ富岡に造られたか、また、登録までの苦労話などについて講演いただきます。

- ③ 記念品の贈呈
- ④ その他

以上

創立90周年を迎え、創立80周年からの10年間を振り返りますと、まず平成27年、卒業生は1万人の大会を超えました。同4月より、前記のとおり3学科4コース定員1200名に改編となりました。

平成26年、富岡製糸場の世界遺産(国宝)登録が実現して、当地にとって今世紀最大の快挙となりました。当地が日本一の養蚕地帯であったことから、明治5年富岡に世界一の最大最新

の製糸場が建設され、大正15年には我が国養蚕製糸の一層の推進のために本校が創立されて、養蚕を中心とする地域産業社会の求める人材育成の役割を果たしたことから、本校は、世界遺産富岡製糸場と深い関わりを持っています。世界遺産効果は抜群で、今、街はにぎわい、活気づいて変身しました。これからは、住民と行政が一体となって世界遺産にふさわしい日本の街づくりに取り組んでいくこととなります。

富岡製糸場に関しては、この10年余り富美の生徒たちが街中に花いっぱい運動を展開し、製糸場にも美しい草花植栽を続けて市民や子ども達を巻き込んで美化運動を進め、多くの市民や観光客の目を惹きつけ、富美生の地域社会に対する美化奉仕活動には高い評価が寄せられています。私が関わっている富岡製糸場を愛する会の諸活動にも、富美生は先生方と共に積極的に参加して地域に開かれた富岡実業高校を体現してくれています。

私は、昭和35年本校定時制の卒業生ですが、昭和52年の創立50周年記念式典からこのたびの90周年記念式典まで40年にわたり同窓会役員として本校の運営にかかわりました。平成9年の創立70周年記念式典の翌年に同窓会長に選ばれて以来、はや20年の長きにわたり同窓会の先輩や後輩、学校の先生方のご指導やご協力を受けて良い学校づくりのため同窓会の責任者をやってきました。これまで何度か慰留され居心地の良い同窓会に長居してしまいましたが、創立90周年を区切り同窓会は後進にバトンタッチいたしますので、宜しくお祈りいたしますと共に、愛する母校富岡実業高校の一層の発展を心よりお祈りいたします。

「地域で輝ける職業人の育成」を目指して



校長 木村 剛

この度、群馬県立富岡実業高等学校創立九十周年記念式典を華やかに開催できますことを、これまでご支援いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

本校の歴史を振り返ってみますと、大正十五年四月八日に群馬県北甘楽郡小幡町立小幡実業補習学校農学部として発足いたしました。群馬県の方針でできた「官制」の学校ではなく、地元有志たちの努力によって生まれました。農学部という名称は、ここに学ぶ生徒達が帝国大学農学部(現農学部)に劣らない夢と理想を持つてくれることへの思いが込められています。当時は、午前中は授業、午後には各自の農地で働く実習の時間があり、入学者は十七名、尋常小学校の玄関脇の図書館が教室であったと言われています。その後他校に類例を見ない苦難の道を歩みつつ、有志たちの並々ならぬ苦闘に支えられて昭和二十三年に県立移管され、群馬県立北甘楽農業高等学校になりました。その後、昭和二十五年に群馬県立甘楽農業高等学校、昭和六十一年には電子機械科を設置し、現在の群馬県立富岡実業高等学校に至りました。これまでに幾多の変遷を経て、多くの生徒、教職員、そして保護者や同窓生、地域の方々のためまぬ努力と支えによって、創立以来九十年の輝かしい伝統と実績を築き上げてきました。甘楽富岡地域を中心とする西毛地域の産業教育の拠点校として発展し、卒業生は二万名を超え、地元の産業界はもとより、広く県内外、各方面で活躍されています。

さて、科学技術の進展等に伴い職業人に必要とされる専門知識や技術が高度化するとともに、産業構造の変化に伴い職業人に求められる専門的な知識及び技術が変化しています。また、グローバル化が進展する中では、人間の幸福と社会発展の調和的な実現を図るため、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観等の醸成、豊かな人間性の涵養等が重要となっています。さらに、急速な少子高齢化の進展に対応し、活力のある地方社会を維持していくためには、魅力ある地方の創生が課題となり、地域産業や社会を担う人材の育成が急務となっています。このようなか中で、農業では地域農業をはじめ地域産業の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を、工業では技術技能の基礎基本を習得し、実践を通して思考・判断表現ができ、ものづくりに対して優れている人材の育成を目指していかねばなりません。

これから本校では、長い歴史と伝統を引き継ぎ、「地域で輝ける職業人の育成」を目指した教育を実施していきたいと考えております。その観点としては、第一に、将来のスペシャリストを育成するため、専門性の基礎基本を「層重視し、専門分野に関する知識と技術の定着を図ります。実社会や職業とのかわりを通して、職業観、規範意識、コミュニケーション能力等に根ざした実践力を身につけるため、長期インターンシップやデュアルシステムを充実させます。第二に、地域産業を担う人材を育成するため、現在でも取り入れている富岡市や甘楽町等の地域や産業界等との連携・交流を通じた自発的な学習活動や就業体験をより充実・発展させるともに、専門学科講師の活用についても充実させます。さらに、地域の振興、商品開発や起業的な活動等に取り組む学習では、課題研究や農業クラブの研究部活動等の内容を充実させます。第三に、環境エネルギー、食の安全等への対応と職業人としての倫理観を育成するため、各教科科目で統一した指導を展開します。環境・エネルギーに関する内容、食料の安全で安定的な供給など食の安全等への対応に関する内容、情報モラルや情報セキュリティに関する内容を充実させます。

本校の校訓は「礼節 勤勉 友愛」です。高志と夢を持ちながら、友と切磋琢磨し、勉学に励み、自らを鍛え上げることです。そして、教育目標は「産業人として必要な基本知識・基本技術と自主的・自律的な態度を養い、豊かな人間性と個の特性を生かして社会の発展に貢献できる人間を育成すること」です。この校訓と教育目標を達成すべく、愛校心と郷土愛を持って地域のために活躍できる人材の育成に尽くしていく所存です。

地元・地域社会と共に

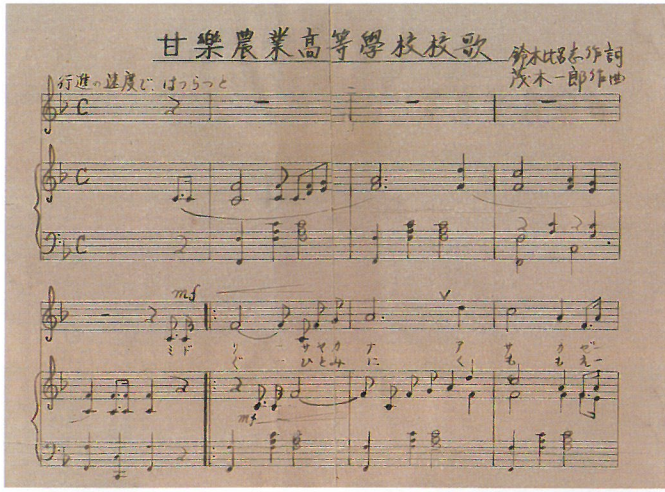


PTA会長 高橋 誠

群馬県立富岡実業高等学校がめでたく創立90周年を迎えることができ、PTAを代表し心よりお祝い申し上げます。これもひとえに創立当初より、献身的に教育に對して情熱を燃やし、生徒の指導に当たって来られた教職員の方々の並々ならぬ努力のためであるとして深く敬意を表します。また創立以来変わらぬ「厚情」と「支援」を頂いている地域関係者の皆様、同窓会、PTAの皆様のご協力に感謝を申し上げます。

- ◆平成27年7月7日
 - 「第1回実行委員会の開催」
 - 組織体制、役員選出、事業内容等の検討
- ◆平成27年11月12日
 - 「第2回実行委員会の開催」
 - 組織体制、事業計画及び記念式典の実施日、事業内容
 - 予算の検討承認
- ◆平成28年1月27日
 - 「第1回記念式典小委員会の開催」
 - 記念式典次第、招待者、感謝状
 - 贈呈者、記念講演会講師についての検討
- ◆平成28年2月2日
 - 「第1回記念事業小委員会の開催」
 - 記念新聞の発行、記念品についての検討
- ◆平成28年2月23日
 - 「同窓会 本部役員会の開催」
- ◆平成28年4月9日
 - 「同窓会 本部役員会の開催」
- ◆平成28年4月27日
 - 「同窓会 本部役員会の開催」
- ◆平成28年5月30日
 - 「同窓会 代議員総会の開催」
- ◆平成28年6月2日
 - 「第2回記念式典小委員会の開催」
 - 記念事業内容、記念式典次第、記念講演会講師についての検討承認
- ◆平成28年9月1日
 - 「第3回記念式典小委員会の開催」
 - 「第3回記念事業小委員会の開催」
- ◆平成28年10月4日
 - 「第4回記念式典小委員会の開催」
 - 創立90周年記念新聞校正作業
- ◆平成28年10月7日
 - 「第1回記念祝賀会小委員会の開催」
 - 祝賀会次第、席次の検討
- ◆平成28年10月13日
 - 「第3回実行委員会の開催」
 - 各小委員会における承認事項の確認

創立九十周年 記念事業の経過



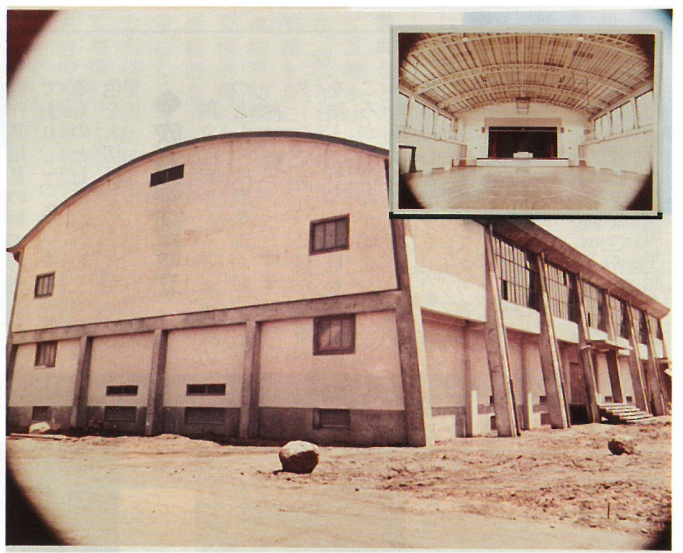
昭和27年(1952) 甘楽農業高等学校校歌の直筆譜面



昭和24年(1949) 高校第1回卒業の記念写真



(撮影年不明) 写真展作品より 稲作実習の様子



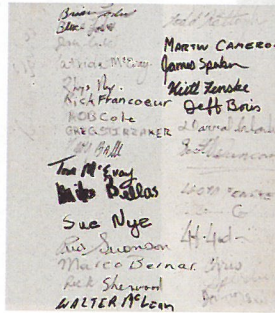
昭和40年(1965) 落成された体育館(現格技場)

年・月・日	概要	社会的出来事
大15年4月8日	群馬県北甘楽郡小幡町立小幡実業補習学校を小幡尋常高等小学校に併設、農学部入学式を行う。この日をもって本校の創立とする。	各地に小作争議続発 米1升4円、酒1升2円7銭、新聞1か月90銭 第1回群馬県議会議員選挙
昭和2年4月4日	群馬県北甘楽郡小幡町立小幡農業専修学校と名称を変更する。	農民運動取り締まり実施される
昭和10年9月	青年学校令発令、学制改革が実施され小幡青年学校2部の名称で認可される。	支那事変おこる 日独伊防共協定を結ぶ
昭和12年3月31日	北甘楽郡小幡町外6ヶ町村学校組合立群馬県小幡農業学校設立認可。修業年限2カ年制(小幡町及び福島町、秋畑村、新屋村、岩平村、額部村、高瀬村)	電力消費規制を強化する
昭和18年3月31日	甲種農業学校(修業年限3カ年制)に昇格、北甘楽郡23カ町村組合立となる。	食糧増産労徒500万人動員 学徒動員令出される
昭和19年12月25日	小幡町より現在地(富岡市)に移転する。	国内学校事業停止
昭和20年2月6日	群馬県北甘楽農業学校と校名を変更する。	長崎、広島に原子爆弾が落とされる
昭和20年3月31日	農業科女子部 修業年限2カ年制を設置する。	農協の設定はじまる
昭和23年3月30日	県立移管となる。設置学科・農業科 募集定員100名	大韓民国成立、朝鮮民主主義人民共和国成立
昭和23年4月1日	県立移管により、群馬県立北甘楽農業高等学校となる。	
昭和23年10月1日	夜間定時制農業課程を併設、開校式を行う。募集定員50名	
昭和24年5月11日	校舎落成(木造2階建8教室)	
昭和25年4月1日	郡名変更により群馬県立甘楽農業高等学校と校名を変更する。	
昭和26年3月31日	農業科女子部を廃止する。	
昭和27年10月10日	定時制専修科(修業年限2カ年制)を設置する。	
昭和27年11月10日	甘楽農業高校旗、校歌を制定する。全校放送施設の設置。	
昭和27年11月27日	帽章、バッヂを制定する。	
昭和29年9月25日	定時制専修科を廃止する。	
昭和40年3月	体育館兼講堂(現格技場)落成。	
昭和40年4月1日	全日制1学級増加。募集定員150名となる。	
昭和42年11月24日	定時制募集停止	
昭和43年3月31日	創立40周年記念式を行う。	
昭和43年3月31日	定時制課程を廃止する。	
昭和43年3月31日	園芸科を設置する。	

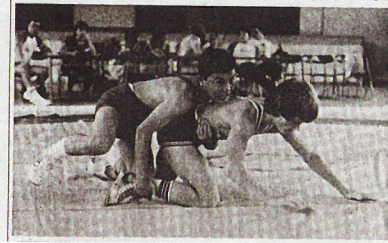


昭和61年(1986)

富岡実業高等学校と校名変更された頃の航空写真



(7) 昭和60年(1985年)8月17日(土曜日)



カナダチームにがい歌 富岡Jなど33試合に挑戦

富岡Jなど33試合に挑戦

昭和60年(1985)

本校体育館を会場にしてカナダチームとの日加親善レスリング交流会が開かれた。写真は上毛新聞の記事とカナダチーム選手の記念色紙

80周年記念事業より

◆校訓・スクールカラーの制定

平成18年、創立80周年を迎えたことを機に、本校の歴史と伝統を受け継ぐとともに、さらなる発展を願い、校訓及びスクールカラーを制定した。

校訓『礼節・勤勉・友愛』

産業人として必要な、礼儀・節度を養う。実り豊かな社会生活を目指し、惜しまず努力する。協調を重んじ全ての人々を慈しむ心を培うことを論ずるものである。

この校訓は本校に長年勤務された岡田恵子先生に揮毫していただき、お礼、校長室、応接室、生徒玄関口の3カ所にそれぞれ掲げられている。

スクールカラー『樺緑(きょうりょく)』

本校の校章にあしらわれている樺葉の深緑をあらわす色。樺は昔から農作業用具の柄の材料として使われており、この色は本校の歴史を物語るものとしてふさわしく今後もこの色を大切にしていきたい。

◆吹奏楽部設立

創立80周年記念式典事業のひとつとして吹奏楽部が設立された。

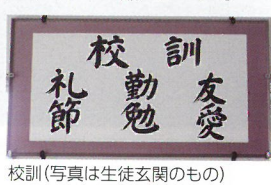
部活動としてはゼロからのスタートであり、必要な楽器や楽譜を揃え、新たに部員も募集するところから活動が始まった。当時は13名の生徒が参加したが

楽器初心者が多く、吹奏楽経験のある本校職員と、当時の妙義中学校長であり富岡市民吹奏楽団長を務めていた守田先生を中心に、近隣の中高吹奏楽部の先生方も多大なご協力を頂くことで練習を重ねることができた。

部員たちは練習を通して演奏することを楽しみ、誇りと自信を持って活動できるように成長することができた。何より80周年記念式典で立派に演奏を披露した姿が今も印象に残っている。



応援旗の紹介



校訓(写真は生徒玄関のもの)

昭和44年4月1日	生活科を設置する。
昭和45年3月31日	教室棟竣工
昭和51年3月31日	教室管理棟竣工
昭和52年5月6日	創立50周年記念事業 大谷石塚竣工
昭和52年10月12日	庭園整備 大谷石門ならびに門扉竣工(高橋伸二、下山裕久監修)
昭和52年11月5日	創立50周年記念式典挙行 50周年記念誌発行
昭和58年3月15日	創立50周年記念事業 課外活動部室竣工
昭和58年3月30日	食品工業科棟竣工
昭和58年12月20日	食品工業科を設置する。
昭和61年3月17日	園芸実習棟(温室)竣工
昭和61年4月1日	セミナーハウス竣工
昭和61年11月1日	電子機械科を設置する。
昭和61年11月1日	群馬県立富岡実業高等学校と校名を変更する。
昭和62年3月20日	創立60周年記念式典挙行
昭和63年3月29日	富岡実業高校校旗、校歌制定
昭和63年3月29日	創立60周年記念庭園完成
昭和63年3月26日	電子機械科棟竣工
昭和63年3月26日	創立60周年記念事業 縦帳、演壇完成
平成3年4月1日	集合2階建舎完成
平成5年3月17日	平成3年度入学生より生活科を生活科学科とする。
平成6年3月28日	野菜コンピュータ温室及び制御室完成
平成6年10月31日	農場、農業科関係実験実習棟改修(情報処理室、生物工芸室完成)
平成9年2月1日	学校演習林の変更
平成9年2月1日	富岡市別保字大谷津より富岡市南後園茶臼山南に移転
平成13年4月1日	創立70周年記念式典挙行
平成13年4月1日	創立70周年記念事業 トレーニング室竣工
平成16年3月31日	学科改変により生活科学科を廃止、農業科を生物生産科、園芸科を園芸科学科、食品工業科を食品科学科とする。電子機械科を含めコース制を導入
平成18年11月2日	マイクロパス更新(同窓会寄贈)
平成27年4月1日	創立80周年記念式典挙行
	校訓『礼節・勤勉・友愛』、スクールカラー『樺緑』制定
	学科改変により120名定員のくくり募集とする。
	生物生産科(生物生産コース)、地域産科(園芸・デザインコース)、食品開発コース、電子機械科(電子機械コース)の3学科4コースとする。
	新制服を制定する。

東大安田講堂事件
東名高速道路開通
大阪万博博覧会
よど号ハイジャック事件発生
成田空港強制執行行われる
大韓航空機ソ連戦闘機に撃墜される
チエルノブイリ原発事故
東京サミット開催
富岡製糸業務停止
青函トンネル営業開始
牛肉オレシジの輸入目白化
プロサッカーリーグ10チームで開幕
1ドル＝96円35銭 戦後最高を更新
消費税3%から5%にアップ
1府12省庁の新体制でスタート
小泉内閣に支持率88%歴代最高を記録
プロ野球初のストライキ突入(6試合が中止)
携帯電話の番号「持ち運び制」がスタート
富岡製糸場
世界遺産登録 国玉登録



生物生産科

Agricultural Production



生物生産科は、食の安全性、人と動物との関わりなどを学習し諸課題に対応できる能力を養います。現在、食料生産の3つの柱として、野菜、作物、畜産の基礎基本の学習を行っています。

生物生産科の大きな特徴は「生産物の販売」です。グリーンフェスタでは野菜苗の販売、日々の実習をとおしてトマト、キュウリ、トウモロコシ、鶏卵などの生産物を地域の皆さんに直接生徒が販売しています。また、幼いうちから「食」について正しい知識を身につけてもらえるように、地域の幼稚園や小学校などで食育交流活動にも力を入れ、10年以上の継続的な活動をしています。安全で安心して食べられる食の大切さを私たちが積極的に広め、国内外において地域のリーダーとして活躍できる人材の育成を目指して、交流活動を続けています。

学科紹介

生物生産科・園芸科学科



園芸科学科

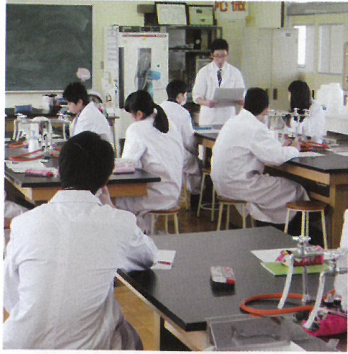
Horticultural Science



園芸科学科は、郷土発展に関心をもち地域の活性化に貢献しようとする意欲的な姿勢を持った人材を育成することを目標に、地域に根ざした様々な活動に力を入れてきました。園芸植物の栽培を中心に、学習した成果を地域に発信し、グリーンフェスタ、シクラメン祭等のイベントを通して来場者に喜ばれる草花を提供してきました。

また、地域の美化活動にも積極的に参加しています。平成元年から現在まで「花いっぱい運動」として地域の公共機関等にプランターを設置しており、地域の方々と協力して園芸活動を中心とした地域活性化活動を行っています。

さらには園芸科学科の生徒が中心となり、富岡製糸場世界遺産登録に向けて周辺の景観づくりをお手伝いしてきました。平成26年に富岡製糸場が世界遺産に登録された際には、私たちの活動も登録の一助になったものと感ずることができました。



食品科学科

Food Science



食品科学科は、食品及びその加工・利用に関する基礎的な知識・技術の習得はもとより、フードシステム・食品環境などの学習を通して、科学的な知識と「食育」の大切さや「身土不二」の精神を重んじる心を育成してきました。地域のイベントなどでは、本校で生産した味噌や焼き菓子などを提供し、富岡製糸場のお土産になるような新商品の開発にも力を入れてきました。

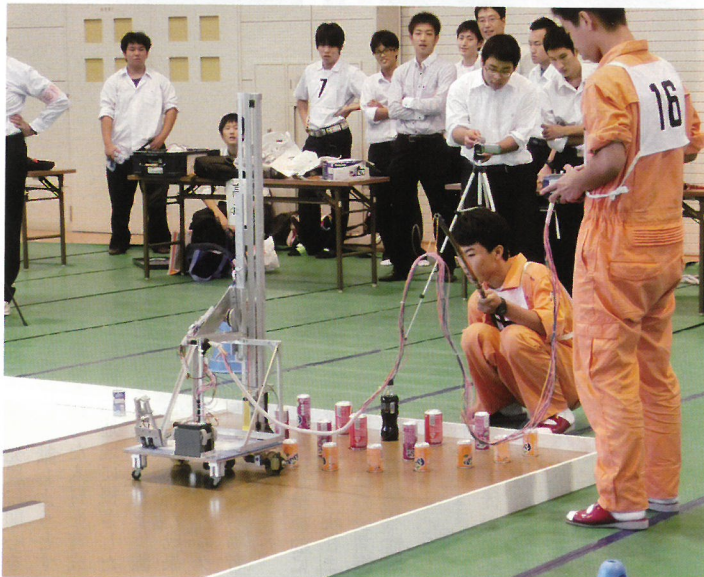
卒業後の食品産業現場での技術者の養成ばかりでなく、地域社会や郷土の発展、環境の保全に関心と意欲を持ち積極的に貢献しようとする人材を育成しています。

学科紹介 食品科学科・電子機械科



電子機械科

Mechatronics



電子機械科では伝統的に「自分の考えをしっかりと言葉にして表現する力」を育てており、企業に求められる人材育成につながっています。

3年間の集大成である課題研究では電気自動車製作、MC加工、マイコン制御、プログラミング等に取り組み、生徒は自身の未熟な部分を少しでも成長させようと努力しています。近年では従来の資格試験に加え、機械加工と機械検査作業の分野において技能検定に挑戦し成果を挙げる者も増えてきました。

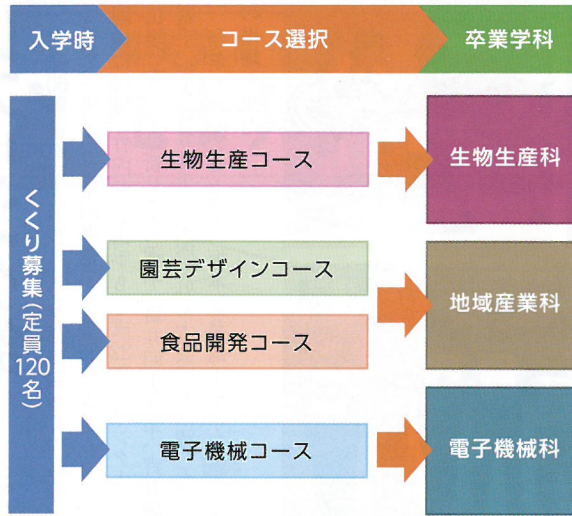
また、更に技術習得を願う生徒は機械研究部にも入部しており、目覚ましい活躍を見せています。この機械研究部を中心に富岡市産業祭や元氣フェスタへの参加、小学生に向けたもの作り教室の開催等を行っており、次世代の技術者育成を狙った地域貢献にも積極的に取り組んでいます。

平成27年度 学科改編により「くくり募集」入学となる

平成27年度の入学者より3学級定員(120名)のくくり募集となった。入学生徒はコース選択のために、「科目」「産業社会と人間」を通してガイダンスの内容を学び、自ら将来の目標に照らしたコース選択ができるようにした。

卒業学科は選択するコースにより、農業の生物生産科と地域産業科、工業の電子機械科となる。

くくり募集の第一期生である現2年生は、生物生産コース40名、園芸デザインコース18名、食品開発コース27名、電子機械コース34名に分かれており、4月から本格的に専門科目を学んでいる。



新しくなった制服

「産業社会と人間」学びの様子より



H27年 くくり募集1期生 入学式の様子



クラスの風景

生徒は年度の前半(4月~9月)で、コース選択のためのガイダンスを受けている。その中心になるのが4コースにおいて実施する実習体験であり、それぞれ15時間以上の体験学習を計画・実施している。本校で実施している「産業社会と人間」の特徴は、生徒は実際に作物、草花、食品、機械といった多様な産業分野の基礎に触れることができることにある。横断的な学びにより、生徒は様々な発見をしており、次世代産業人を育成するための導入科目として手応えを感じている。

食品開発コース

食を科学し、豊かな食品活用を創造する



菓子作り体験

生物生産コース

食料生産を科学し、農業の未来を創造する



田植え体験

電子機械コース

確かなものづくり技術で、地域産業の発展をめざす



金属加工体験

園芸デザインコース

園芸植物を活用し、生活の豊かさを創造する



育苗体験

農業クラブ全国大会開催

平成27年10月20日(火)~22日(木)にかけて、第66回日本学校農業クラブ全国大会が群馬県を舞台にして開催された。同大会が本県で開催したのは昭和41年以来、49年ぶり二回目である。

「つる舞う形の 群馬で広がれ 農クの輪」 「群馬の地で 花咲かせよう われらの夢」をスローガンに、プロジェクト発表会、意見発表会、平板測量競技会、農業鑑定競技会、クラブ員代表者会議、代議員会、大会式典、歓迎の集い、群馬の農業展の全9種目が、県内各地で行われた。

本校は前橋市民文化会館で行われたプロジェクト発表会の運営を担い、当日は農業クラブ本部役員を中心とした生徒たちが活躍し、発表会を成功に導いた。



農業クラブ群馬大会ロゴ



ALSOKぐんまアリーナ

全国大会式典の様子



活動記録簿展

部活動 10年間の活躍

レスリング部

創部60年目を迎えたレスリング部は数多くの活躍を見せている。男子では福田翼選手が平成19年にインターハイ、国体に出場。竹内将美選手も平成22年にインターハイに出場。女子では新井千明選手、新井明恵選手、吉井瑞江選手、吉水麻蓉選手らが国内外の大会で大活躍した。今年も齊藤英二選手、坂本捺菜選手がインターハイへの出場を果たした。



陸上競技部

陸上競技部では田村成広選手が砲丸投げとやり投げにおいて、平成21・22年と連続して関東大会出場を果たした。



ハンドボール部

ハンドボール部は関東大会への出場を重ねており、特に平成22年には男子がベスト8入りを果たした。



野球部

野球部は平成21年度の1年生強化試合「若駒杯」で3位に入賞。また、平成24年春季大会では平成15年以来的のベスト8入りを達成した。



機械研究部

機械研究部は平成25年度から参加している全日本製造業コマ大戦で成果を挙げた。平成27年には国内予選を勝ち抜き世界大会に出場ベスト16入りした。全国高校生コマ大戦では平林祐樹選手、野村竜聖選手が優勝、準優勝を遂げる快挙を得た。



ギネス 世界記録達成!

平成25年11月4日、富岡製糸場の世界文化遺産登録に向けて、本校体育館を会場にして8000枚ものグリーティングカードを使った世界最大のモザイクアート制作が行われた。

富岡青年会議所が企画し、本校の生徒も実行委員メンバーとなった制作活動は、面積にして約110㎡(縦10m×横11m)の富岡製糸場東繭倉庫を描くことに成功。「グリーティングカードを使った世界一大きなモザイクアート」としてギネス世界記録に認定された。



Guinness World Records

『小幡農業学校』 文机の里帰り

平成27年11月5日、甘楽町所在の宝積寺から本校のルーツである小幡農業学校の刻印のある文机が引き取られた。これは、宝積寺本堂の改修工事に際して発見された文机3基のうちの一つ。



寄贈された文机



宿泊訓練

編集後記

本新聞の編集作業は、学校創立からの歴史と変遷を振り返るとともに、この10年間で富岡実業高校が地域とどのような関わりをもつて活動してきたのかを改めて理解する機会になりました。

レスリング部は昭和31年の創部より伝統と数々の栄光をもたらしています。農く全国大会は昭和41年以降の群馬県開催となり、生徒らはその運営を立派にやり遂げました。また、それぞれの学科が地域活性化や若年者への産業教育に貢献しています。それらの活動は学校を支える大きな柱であり、これからも地域とともに歩む学校として発展することを願っております。

創立九十周年記念新聞

編集委員会二同

校章の由来



「高」の字を3枚のカシ葉で囲んだ形である。常緑樹のカシは風格ある丈夫な木であり、気品と質実剛健を意味し、本校生徒もかくあるべしとの理想を表している。高の下の波形は、鑄の清流をあらわし、カシ葉の周りには6枚の鎌の刃を示している。その間に上毛三山が頭を出している姿である。